

公開授業① (10:50~11:35)

③ (9:50~10:35)

国語科学習指導案

1年1組 村田 未沙輝

1 単元名 つたえたい ようちえんのおともだち ~みんな スーパー二年生 -小学校のせつめい文-

国語研究主題 未来をそうぞうする子どもを育むための「学びの言語」の習得と活用~言葉における認識の機能とイメージの関連性について~

2 研究主題との関連

(1)単元について

3学期,全国の1年生たちは小学校での初めての進学を前にし,これからできる「後輩」に胸をわくわくさせ,「後輩のために自分にできることはないかな」と,温かい気持ちをもちはじめる。124期生の子どもたちも同様であり,10年後の未来においても「初めての期待感と,後輩に何かを伝えたい」という,その温かさは不変のものであってほしい。その中でも本学級1年1組の子どもたちは未来そうぞう科B領域にて附属幼稚園ほし組(5歳児クラス)の友だちと交流を積み重ねており,その気持ちの高まりは予想以上かもしれない。そんな本学級の子どもたちが,より「未来をそうぞうする子ども」に近づくためには何が必要かと考えた時,この時期に協働的実践力において鍵となる「相手意識」、その大切さを感じる事が重要ではないかと考えた。6・7歳という年齢の子どもが相手意識をもって物事を考えることは難しい。実際に,日々の喧騒の中では,「ぼくは〇〇したい!」「私は△△すればいいと思った!」という自分の思いや願いが先行した言葉が飛び交っている。しかし,6・7歳であっても,あとで冷静になって考えた時「□□さんはこうしたかったのかも。」と,相手の立場になり,多角・多面的に物事を考え,解決の糸口を他者と共に探せる子どもであって欲しいとも考える。日常の中では感情が特に先に出るため難しくとも,言葉を扱う,ある種,冷静に物事をとらえなおすことができる国語科だからこそ「相手の立場に立つことの大切さと,相手の立場になり,言葉を通して伝え合えた時の互いの喜び」を授業の中で感じさせたいと考えた。

そこで,本単元では表現する相手を「ほし組の友だち」,言語化する対象を「学校の各部屋(運動場)」とし,「説明する」,文章を書く。子どもたちに,まずは「もうすぐ迫る新2年生として『学校を説明する文章』を幼稚園の友だちにプレゼントしよう」と提案する。1年1組の子どもたちは今までに学びの言語「対象(もの)を説明する」という活動において,①まずは「つくり」として「色や形,何があるのか」ということを伝え,そこから派生する「はたらき」として「できること」を伝えるということを「いろいろなふね」(東京書籍1年下)で,②正しく伝えるためには,人によって異なる「感じ方」は入れないということを「せつめいクイズ」(2学期実践事例)で,学習している。既習事項であるこの①②の知識・技能を生かして,様々な学校の説明文を書かせたい。きっと「幼稚園の子どもたちは小学校のことを知りたいだろう」「この説明文をプレゼントしたら喜んでくれるはずだ」と意気込み,文章を書く姿が予想される。しかし,はじまりが指導者から書くことを提案された文章であり,相手意識が希薄な子どもたちにとって,そこに表出する文章は,書けば書くほど「自分たちの新しい学校への気づき」が先行し,幼稚園の友だちが求めるものとは離れていくことも予想される。(例 およそ,1年生が学校において立ち入ることのない国語研究室の説明,あるいは身近な教室であっても主となる働きとは異なる枝葉としてのつくりの説明)このタイミングで附属幼稚園ほし組の担任の協力のもと幼稚園の子どもたちにとって,説明を受ける必要があること,あるいは幼稚園の子どもたちが知りたいと思っていることについての助言をもらう。そこで,子どもたちに何を表現すべきか,もう一度相手のことをとらえ直し,情報を選択,再度相手意識をもった上での小学校の説明文の作成にのぞませたい。子どもたちにとって,一度書いたものが突き返される経験は苦いものになるかもしれない。しかし,その上でその壁を乗り越え,書き上げたものが幼稚園の友だちにとっての喜びにつながるという成功体験をもって相手意識をもって物事に取り組むこと,その大切さを感じはじめさせたい。

「説明する」という学びの言語は,題材を変えながらも,子どもたちが6年間を通して学習するものである。相手や目的に応じて,よりよく伝えたいと思う時こそ,自身で言葉の働きに応じた向き合い方を切り替え,表現を選択・工夫,吟味・運用できる児童(主体的な表現者であり,未来をそうぞうする子ども)を6年間で育みたい。

(2) 本単元における国語科の目標

- 主体的に学習に取り組む態度 文章を書くことを楽しみ、説明することのよさを感じようとしている。
- 知識・技能 「説明する」という学びの言語の働きに気づきはじめることができる。(言葉の働き)
- 思考・判断・表現 相手意識をもち、「説明する」の特徴をとらえ、文章を書くことができる。(書くこと)

(3) 活動構成の仮説

仮説①協働的实践力とのつながりを意識したことによる発展的な学習内容の取り扱い

相手意識をもつ、目的意識をもち文章を書くということは国語科「書くこと」において、本来3・4年生の指導事項にあたる。しかし、未来そうぞう科において、多角・多面的な見方・考え方を育むためにも、また、協働的实践力を育む素地としても、相手意識を指導事項の中に取り入れることは必要であると判断し、本実践では取り入れている。そのために、1・2学期から、未来そうぞう科B(幼小交流)と国語科の学習を計画的にカリキュラムマネジメントし、子どもたちが具体的に表現する相手をイメージできるよう手立てをおこなった。これにより、より子どもの協働的实践力を未来そうぞう科・国語科、両側面から育むことができるのではと考えた。

仮説②創造的实践力を高める評価の場の設定

今回、子どもたちにとって思いがけないことが起きる場(今まで書いてきた文章が相手にとって満足のいくものではなかったという場面)を設定している。そのような機会は子どもたちにとってのレジリエンス【研究総論9参照】を試される場となるだろう。この機会を中心としつつ、常に表現を改善していく姿を見取る。また、文章作成中の教師との対話や、発信の場(新1年生説明会2月14日)を意図的に設定し、子どもが自身の学びを確かめたり、試したりできる場(自己評価できる場)を単元の中で取り入れる。それにより、子どもたちが相手のために表現することに、意味や価値を見出すことができる姿(創造的实践力を発揮する姿)を生み出したい。

仮説③主体的な表現者を育む、学びの言語について

本単元では、「説明する」という指導者が普段なげなく子どもの表現を促す動詞として使っているこの「学びの言語」に焦点を当て、学習を進めることとした。もしかすれば、子どもにとって「何を問われているのか(求められているのか)」「難解な言葉にもなりかねない「説明する」というこの言葉にメスを入れ、指導者・児童双方の中で共通理解することが「学びの言語」の役割である。子どもが自ら「どのようなことを書いたらいいのか。」「どのような視点で書きはじめたらいいのか。」ということを経験的な活動の中で思考・判断・表現し、「説明する」という言葉のはたらきについて習得できる場、それを発揮できる場を本単元では構成したい。

(4) 国語科の学習と未来そうぞうのつながり

学びの姿「イメージ・クリエイト」との関連

本年度、国語科では「学びの言語」を通して、「イメージ・クリエイトの往還」について、アプローチをすすめている。本単元でも、子どもたちがどうすればよりよい表現者として、幼稚園の友だちの小学校への不安をとりのぞくことができるのか、ということを経験の中でイメージする。そして、単元を通して自分がその姿にむけて、何を表現するのか、そのためにはどのような知識・技能が必要なかを判断し、時には対象を再認識・再構成しながら、「幼稚園の友だちも、そして自分自身も笑顔になれる未来のクリエイト」に向けて学習をすすめていく。

単元の中で3つの実践力を発揮している姿

- 主体的実践力 新2年生として後輩に対し何かをしてあげたいという気持ち(責任感)で活動に取り組む姿。
- 協働的实践力 園児の立場になって言葉に向き合おうとしている姿。
- 創造的实践力 自分が表現する(書く)ことに意味を見出し、あきらめず改善しようとしている姿。

3 指導計画 全14時間 本時 8日(金) 8時 9日(土) 9時

学習活動と子どもの意識		重要となる活動 指導上の留意点	国語科の評価	創造的実践力を発揮している姿と、高める評価の視点		
未来そうぞう科	国語科			発信	見通し	レジリエンス
新2年生として、幼稚園の友だちに学校を説明する文章をプレゼントするという、学習の流れをつかむ。						
【1時】本単元での学習のながれをつかみ、見直しをもつ。 いままであそんできたようちえんのお友だちのためにがんばりたいな!	まずはみんなできょうしつのせつめいでれんしゅうしよう。そのあとぼくは〇〇のせつめい文をかくぞ。	・今まで未来そうぞう科の学習で交流を積み重ね、相手の顔・名前が具体的にイメージできる相手を対象にする。 ・学習を通してどうなりたいか未来の姿をイメージさせる。	・活動の見直しを持ち、活動を楽しみ、どのようなことを今後行なっていきたいのか(活動の具体)を考えている。(主体的態度)		この学習を通して、どうなりたいか、未来の新2年生に向けて自分がどうなりたいかを考えている。 (発言・ワークシート)	
幼稚園の友だちに学校を説明する文章を書き、できたものを推敲、プレゼントする。 3時間						
【4・5時】校内の地図を作る。	【2時】学校についての情報蒐集 【3時】1-1教室での練習説明 【6・7時】説明文の作成・推敲 「つくり」「はたらき」をかんがえて、ぶんしょうをかくぞ。あたらしいはっけんがいっぱいだ!	・あえて、単元計画を国語科中心で進めることにより書き進めるにつれどんどん相手意識が希薄になる様子を促す。 ・ものを「説明する」際の留意点①②を意識させ、文章を自己・相互評価させる。	・説明文の特徴に気づくことができる。(知・技) ・説明する文章の特徴を生かし、選んだ教室の説明文を書くことができる。(思・判・表)			
自身の経験を報告する文章を書き、できたものを推敲、プレゼントする。 3時間						
【8時】園児の反応からプレゼントする文章をみなおす。【1日目本時】これで、あきらめたくない!しん2年生として、がんばるんだ。	【9時】園児にとって必要であろう情報の選択を行う。【2日目本時】きょうしつの中でも しん1年生がしておいたら いいことってどんなこと だろう? 【10・11時】説明文(2回目)作成 【13時】入学説明会を踏まえて報告文を完成し、プレゼントする。	・子どもたちがレジリエンスを発揮できる場を構成し、どのようにして乗り越えるのかを指導者と共に考える。 ・3時で書いた自身の教室の説明文をみなおし、どのようなことが園児にとって特に必要な情報なのかを選択する。 ・思いがけないトラブルを乗り越えたことができたこと、それによって成功体験をすることができたことを自覚できるよう支援する。	・園児にとってどのような教室のつくり・はたらきを説明することができるかを想像し、選択することができる。(思・判・表)	ビデオレターや、自身の経験から相手意識をもち幼稚園の友だちがどのような文章をもらえれば喜んでくれるのかを考えている。(発言・ワークシート) 入学説明会の時に実際に伝える、他の要素を聞く姿(パフォーマンス)	写真や、未来ノート、自由ノート(毎日の日記)をもとに、これまでの自分ができたことを思い出そうとしている。(発言・行動)	今まで書いてきたものが成功体験に繋がらなかったとしても、さらに改善しようとしている。 (発言・ワークシート) 文章をよりよく改善しようとしている姿(行動・ワークシート)
幼稚園の先生からのビデオレターをから再度園児の反応をもらい、自分が一番がんばったことをまとめる。 3時間						
【14時】本単元での学習をまとめ、意味づけ・価値づけを行う。 ようちえんのももだちがよるこんでくれて、ほんとうによかった。さいごまであきらめないで、よかったな。	あいてによって、どんなことをせつめいするのか、えらぶことがたいせつだと、わかったよ。	・国語科・未来双方の視点からできたこと、一番がんばったことをまとめ、今回の学習の意味づけ・価値づけを自分なりに行う場を設定する。	・説明することのよさを感じ、どのような学びがあったのかを考えようとしている。(主体的態度)		学びの意味づけ・価値づけ、それが未来において、相手意識のたいせつさ (ポートフォリオ)	